

# 寿楽院寺報

〒369-1245 深谷市荒川 9 8 3

高野山真言宗 荒瀬山 寿楽院

住職 高橋 敬行

電話 048-584-0302

## 「四月八日」は、花祭りです

降誕会・四月八日は釈尊誕生の日です。花祭り、灌仏会、仏生会、などともいいます。四月八日には、全国の寺院で花祭りが行なわれます。

＊美しい花で飾った「花御堂」が設けられ、右手で天を、左手で地を指さした「誕生仏」が安置されます。

＊誕生仏に「甘茶」がかけられます。その昔、釈尊の誕生にあたって、九匹の龍が、清浄な香水や水を注いだという、祝福された故事によるもので、おそらく産湯のことでしょう。

＊甘茶は、ヤマアジサイの変種で葉を蒸してもみ、乾燥したものを煎じた飲料です。からだに、たいへんよいものです。甘茶を子供の頭につけると、丈夫に育つと信じられています。家中で飲んで延命息災を願います。

＊長柄の茶杓を龍に見立て、小さな誕生仏に甘茶を注ぎながら、仏恩に感謝し、子供の成長を祈る清らかな心が、美しい慈悲の行事の心です。

てんじょうてんげいごとくそん

## 天上天下唯我独尊

四月八日は、お釈迦様のお誕生日です。

## 寿楽院の花祭り



仏典は、お釈迦様が右手で天を、左手で地を指し『天上天下、唯我独尊』と叫ばれたと伝えています。また、お生まれになったとき、甘い香り豊かな雨が静かに降ったとも言われています。花祭りでお釈迦様の像に甘茶を掛けるのは、この伝説にちなみとありました。■天の上、天の下、一切を通じてただ我ひとり尊し」という言葉については、仏教の悟りの発展とともに、さまざまな意味の再発見が行われています。

■弘法大師の教えを物差しにすれば、お釈迦様だけが尊いという意味で言われたものではありません。我というのとは、この自分も含め、あらゆるもののそれぞれ、一つ一つということになります。■この世にあるすべてのものは、大いなる宇宙の根源（如来）のいのちの現れだというのが、弘法大師の示されたところですから、すべてのものは、すべて掛け替えもなく尊い存在だ、ということなのです。自分だけでなく、自分も含めた人間だけでなく、人間も含めたありとあらゆるものの尊さの宣言。これが天上天下唯我独尊の意味でありました。

## 兎角（とかく）

いうまでもなく、ウサギという動物にはツノなどあるはずがない。亀に毛が生えるというのも兎角と同じ比喻で、通常「兎角亀毛」と熟して仏典にもよく用いられる。その根底には、世の中に存在するすべてのものは空である、と言う考え方が横たわっているように思われる。この一切皆空の思想がいかに仏教にとって重要であるかは、その比喻表現の多彩さからもうかがい知ることが出来る。

## 仏教が生んだ日本語

## 伝言板

強くなる秘訣は？  
たくさん負けることだ。



## 空海の言葉 シリーズ

六度、耳に逆うて、  
しょうしゆ つみ  
焼種の辜を顧みず

●●● 仏のような人間になる六度（六波羅密）の行を勧められても聞き入れず、仏法をけなすことは、自分の心の中の善玉を焼いているようなものだ。

(一度) 人には施せ。(二度) うそつくな。

(三度) がまんしろ。(四度) 一生懸命努力しろ。

(五度) そわそわしないで、心を落ち着ける。

(六度) もっと知恵を出せ。

弘法さんは、誰の心にも仏さまになる種が植え付けられている、といわれます。鬼のような気持ちの人が多い現代の世に、せめて一度の行でもして、仏さまの種から芽を出させる事が大切です。

